

## 第2回大月市立大月短期大学附属高等学校基本問題審議会議事録

日時 平成21年8月5日(水)午後2時~午後4時15分

会場 大月市民会館 4階 会議室

出席者 委員 14名

平井会長 小原副会長 田辺委員 古見委員 佐野委員 市川委員

松葉委員 小林委員 渡邊委員 斧田委員 山口委員 山田委員

小俣委員 井上委員

小俣(芳)委員は欠席

事務局

小笠原教育長 坂本次長 後藤企画財政課長 小俣校長 坂本事務局長

雨宮主幹 金畑主任

次第

1 開 会

2 会長あいさつ

3 議 事

ア) 前回会議録の承認

原案のとおり承認された。

イ) 大月市の財政状況について

事務局により、大月市の財政状況について説明(別添資料)

議 長 事務局からご説明が有りました何かご質問はございますか。

委 員 公債費の利率が安ければ返済金が少なくなる。当たり前のことですが、こういう努力がなされた結果なのかな。簡単に言いますと全てのところで公債費は発生している訳ですが、短大の借入金の金利がいくらか、他の方がいくらか、違いがかなりあると思うんですが、この金利を下げるにより、かなり公債費の返済金は下がると思いますが。こういう努力はされているのか。

事務局 国等の借りる部分につきましては、ある程度率は決まっているわけでございますが、金融機関から借りる起債もございます。それらにつきましては入札というような形で決めています。

委 員 国からの借り入れと市中銀行からの借り入れとの違いはわかりますか。

事務局 資料は持ち合わせておりませんが、市中銀行よりは国のほうが安かったと思っております。国で全部見ていただければ良いのですが、なかなかそうはいかないという部分で、ある程度市中銀行から借りなさいとうことであります。

委 員 今本当に金利が安い時代だと思います。市中銀行におきましては、私の知る限りでは企業団が借り換えをしたと思います。その金利が確か1.2%で借り換えを行った。国の銀行から地方銀行への利率というのが確か1%、だからわずか0.2%乗せただけの金額で入札したわけなんです。1.2%、そういうことが出きるのであれば、その1.2%、他のところ

はどうなんですか、5%から6%、7%という金利があるのかな。高いときの動向をよく考えると、こういう努力は当局として成されているのかどうか。

事務局 借り換えを今行くと結局低くなるという部分もありますので、金融機関はもともとスパンを30年とか20年とか、最初のその時の利率とそれからその年間の中で設定してありますから、全部が全部借り換えに応じてくれるという部分も無いのです。

委員 全部が全部ね。昔の懸案というのはかなり努力すればあると思うんだよね。そういう努力を成さなければ、私が言いたいのは、中央病院が去年の暮れ、人件費の不足分の3億が発生した、その3億円を5%で借りているんですよ。そのちょっと前に企業団が借り換えで1.2%で借りている。この違いはいったい何なのかという思いなんだよね。

事務局 企業団のほうの借り換えがどういう部分で出来たのかという事は正直分らないです。借り換えとか繰り上げ償還というのもこちらの都合でしてくれるという部分は正直無いので、今うちで借りている部分において、それを精査した中で該当するものが無いということでございますので、その辺のところは今後順次当然やっていかなければならないと思っております。

委員 かなりの金額が埋まるわけだね、そういうことをあてがえば高校の存続も可能じゃあないかと簡単に思うが。

委員 一つ質問がありますが、2ページ目の積立金の推移の中で平成21年度の見込み額が4億円を下回ると、その4億円というのが要注意ラインと書いてあるんですけど、その要注意ラインが平成21年度では下回っていますが、この要注意ラインを下回ったときにはどうなるのですか。

事務局 4億円のところを基準にし、努力としてここまでは貯めておいたほうが良いですよということで、色々な指導を受けるということとはとりあえずありません。

委員 夕張のときにはどうだったのですか。

事務局 夕張の時にはこの辺のことではなくて、借入金とかそういう部分のほうが大きかったのかなと思います。

議長 他に何かございますか。私のほうからよろしいですか。

財政規模によって金利等かなり地方自治体の規模に応じて国とか貸し出す銀行とかの金利の枠、あるいはグレードとかいうものを付けるんでしょうか。一般的につけていますか。

事務局 それはおそらく無いと思います。ただ、財政指数とか低くなって、もしかすれば潰れそうだとするところには貸さないかもしれません。

議長 噂ではそういう話しも聞いているんですが、大月は大丈夫でしょうか。

事務局 その可能性はありますね。

議長 他に何かございますか。時間もだいぶたっておりますので事務局からの説明を伺ったということで次の議題に移りたいと思います。

それでは、ウの諮問内容の検討に入りたいと思います。ここから色々な意見等が出てくると思いますので、今まで頂いた資料を基にご意見をお伺いしたいと思います。よろしくお願いたします。

委員 提案なんです、今回まで時間があつたので委員の皆さんも資料をご覧になっていると思いますので、それぞれお一人ずつに簡単にご意見を出していただけたらいかがでしょうか。

議長 お一人ずつご意見を、ということのようでありますので、そのようにお伺いしたいと思います。

委員 大月附属高校と大月短期大学が同一敷地内にあるという事が一つの問題点で、2,3年前に大月高校について、大月短期大学の諮問委員会がございまして、大月短期大学の審議委員に私入れさせていただいて、その時に大月高校と大月短期大学が同時に同じ敷地内にあるということは、短期大学が存続することも難しいし、大月高校が存続すること自体も難しいので、どちらか一つが移転しなければならないのであれば、その場合短期大学の審議会の中では短期大学が残って、大月高校が移転をすることが望ましい。というような審議会の結論が出ました。その中で、基本的に今、子どもたちの少子化の中で、今財政のお話もありましたが、移転するだけの財政の負担が無いということなので、どちらかが廃校をしていかなければ基本的にはならないだろう。もしその場合には、短期大学をなくすのか、大月高校をなくすのかということになるとと思いますが、少子高齢化の中で特に県立高校が全県一区になりました。今までは中学生で大月地区の生徒は、都留高校を受験するか、大月高校を受験する以外に桂高校にしても上野原高校にしても学区外という枠で8%の枠の中でしか受けられなかった。今はどこの高校も受けられるようになりましたので、大月学区の生徒が桂高校を受けるにしても上野原高校を受けるにしてもなんら不便が無くなったということがまず第一点。となると、どうしても大月高校が存続していかなければならないという理由がどこにあるかということ、私自身は疑問に感じております。

委員 最初の諮問の文書で第一点に大月短期大学及び同附属高等学校将来構想検討委員会というのが昭和60年、その次には活性化対策委員会が平成5年に設置されています。それから短期大学発展構想推進委員会が平成7年に開催されています。その次が学校教育懇話会が平成13年。さらに平成17年に今と同じ審議会が発足されました。また今回発足されたわけですが、過去の審議会の中でどのような答申をされて、どのような検討がされて提案され、その内容はどうなっているのか、ということから私は検証していくべきではないかと思えます。その結果がどうだったのか。またこの審議会で協議して、諮問したとしても執行者、教育委員会あるいは市の方で今までの対応はどうだったのか。その辺のことを私は第一点に考えたいと思っていますので、これらの資料を提出していただくわけには行かないでしょうか。

議長 今までの経過についての行政側でどう対応してきたのかという資料を欲しいということですが、事務局どうでしょうか。

事務局 たぶん過去の資料があると思います。私なりに過去の検討経緯を踏まえて第一回目の審議会の資料の際に、前回の基本問題審議会答申について考察という意味で出ささせていただきました。おおまかには、そこにうたってあるものが全てではないのかなと私は考えております。

今までの検討の中では、大月高校を存続するためにはどのような方法がいいのかということに主眼を置いて何回も検討されてきた経緯があるようでございます。

活性化を図るためには幾つか課題が出ているわけですが、その中でそれに沿ったことが具現化されてこなかったということは事実としてございます。特に教員の採用については、採用が成されて来なかったということが関連して、現在本採用教員の数が少ないがためにクラブ活動の強化についても今以上の成果が期待できないという事実が出ているわけです。

施設の問題についても、短大と高校は分離すべきだということが昭和 60 年代の検討委員会から提言を頂いております。その提言を受けて少しずつ蓄えてその時に備えましょうということで、基金を作り現在その基金が 9 億 5 千万円を積み立てているというご報告をさせていただいたわけですが、その辺の事情を絡み合わせてみれば前回平成 17 年の基本問題審議会の答申がほぼそれらを網羅した形の中で答申が出ていると受け止めたので、それを考察してみればだいたい今までの流れが分かるのかなとおもいます。過去の資料について全部出して欲しいということであればさっそく準備をし、次回の委員会までにお送りするような形の中で対応していきたいと思っております。

議長 この前、答申についての考察が出ているわけですが、かなり前々からの審議会の中身も含めて考察が出ていると思っておりますが、委員さんの方から要望が出ていますので、これについては事務局で用意していただけるということです。

委員 先日、市の校長会で校長先生方に色々お話をいたしました。これまで大月高校が市内の子どもたちの高校進学ということに対して感謝をしているということでありまして。そして財政的なことは非常に厳しい状況は分かっていますが子どもたちの進学の道を確保する意味で何とか存続できないかという校長先生方のお話がありました。前回の答申があったり財政的なことも有りますが、大月高校が存続をしていかなければいけないという絶対条件が何かあると思うんですね、たとえば耐震化ですよね、27 年度までに絶対耐震化をしなければいけないのか。そういう絶対的な条件で何があるのかというのを知りたい。そこをベースに話をしていけないと話がぐちゃぐちゃになってしまうので、ここだけは絶対譲れない線というか、これだけはしなければいけないというものがあつたら教えていただきたいと思っております。

それから、資料 4 の中の県としての意向なんですけど、どうも廃止の意向がかなり強く出ているんじゃないかなと、もし存続の場合はほとんど県の協力は得られないというようにこの資料からは読み取れるんですけど、そういう風に判断して良いのかということです、その辺をちょっと教えていただきたいと思っております。

事務局 今の質問の件で大きくは二つあると思っております。大月高校が今後存続していかなければならないクリアをしないでいけない問題が前段にあるかと思っております。

大月高校が今後存続するためにクリアしなければならない問題の中で、前回のときに若干資料をお示しいたしました耐震の問題がございまして。平成 27 年度までにはどうしても耐震化ということを図っていかなければならない。併せまして、大学との併置との問題が

ございます。これは大学の認証制度というのがございまして、同一の敷地内に大学と高校の併置解消ということもクリアしなければならないという二つのおおきな問題がございます。併せまして教員の確保という点で、現状の教員は半分ぐらいが正規の教員で半分が期間採用ということでございますから、教育力の向上ということを考えますと正規教員の採用というようなこともあろうかと思えます。大きく分けてこの三つをクリアしなければならないという状況があろうかと思えます。財政面につきましては、義務教育と違いまして高校の場合には国からの補助金が一切ございません。従いまして一般財源と起債ということになるかと思えます。昭和 60 年頃から大月高校と大学の整備として基金の積み立てということで 9 億 5 千万円ほど積立金がございます。

委員 前の資料に 150 人の確保というのがありましたが、その辺はどうでしょうか。

事務局 150 人といえますのは、今、大月高校は各学年 4 クラスという形の中で普通科、商業科と二つの科を併設してございます。4 クラスで 150 人ということでございます。つい先般、山梨県の教育委員会で県立高校整備構想の中で学校適正規模ということで各学年 4 クラスから 8 クラスということで、これを下回った場合には、高校のさらなる統合再配を考慮するということがあります。なかなか学校の運営という中で 4 クラスを割ると、教員の配置の関係だとかいろいろな経費の関係とかであまり効率的ではないということが一般論としては言われています。通常 4 クラスを下回った場合にはなかなか厳しい学校運営というものがせまられるという状況になるということです。

事務局 県の支援については、あくまでも大月高校は市立高校ですから県からの財政的な支援はございません。公立高校という視点から言うと教員の研修ですとか、ソフト面でもかかわりはあるようです。直接行政がダイレクトに支援ということはまったくございません。従いまして、校舎を耐震化する或いは建て替える時に国や県の助成は全くないということです。従って 30 億かかれば 30 億全て大月市が負担しなければならない、あるいは借り入れをしなければならないというような状況があります。

事務局 1 学年の学級数については、法律的には定数法というのがあって、分校でない学校の場合は 3 学年で 240 人を下回らないこと。つまり 1 学年 2 クラスを下回らないことというふうな規定がございます。県の考え方は先ほどお話がありましたように色々変わってきていますが、当初 1 学年で 4 学級を標準といていたのが、4 から 8 の学級を標準とする。学校現場においては、やはり 4 クラス、偶数クラスというのが学校運営上、教育課程をする場合にしましても授業の編成あるいは進路指導をする場合において選択授業等々で大変 4 クラスはやり易い。ですから 4 クラスを標準として維持していきたいと考えております。

しかしながら山梨県においては、3 クラス以下の学校も 5 校ありまして、学級数についてはあくまでも教育課程編成、部活動あるいは学校行事の活性化等々のために 4 クラスが最低望ましいというのが考えです。

委員 二点ほどですが、まず一点目は市の財政というのが先ほど執行部から説明がありましたが、今後益々厳しい状況になってくるという内容ですが、その中で歳出について抑えていかなければならないということで、歳出について抑えて行く内容ですが、どこの部分を抑

えていくのかということで、色々意見等はあると思いますが、大月高校を存続させる優先順位としてどの辺の認識を持っているのかということを知りたいと思います。2点目は東部地域の5校はもちろんですが山梨県下の各公立私立等の少子化について問題だということに対応していることの中で東部地域として大月高校が無くなった場合と存続した場合、それをこの審議会の中でシュミレーションを作ったらどうかと提案したいと思いますが、存続した場合は、大月市単独でやっていかなければならないと思いますが、どういう風に存続させていけるかということをご提案をし、教育委員会のほうで判断をしてもらおうという提案も一つ作るという方法もあるのではないかと。もう一つは廃止した場合に中学卒業する生徒の受け入れ先を、県が統廃合により縮小して行った場合に、公立高校を2校なりに絞ってきた場合に、試験によってできないからといって市内の子どもたちを入学させないようなシステムになってしまうと市としても責任があると思うんですね。そういうことが無いように県でも必ず入学希望者に対しては、努力も本人がしなければいけないんですが、その辺の受け入れ態勢をちゃんとしてくれるのか。また、教員についてもここで廃止した場合に県の方あるいは市の方でこの教員をどういうふうな定年まで導きというか線引きというか構想といいますかそういうものをどういうふうにするかということまで含めた上で廃止にするんだというような提案をここで話し合っ、判断はあくまでも教育委員会のほうでしてもらおうという方法にしたらどうかという意見です。

委員 私は大月高校を出て大月短大も出ています。両方の学校を出た中で、私の考えるのに附属高校の格の問題みたいなものが存続するかしないかという部分が出てきているのかなという感じはしております。今、色々な地域で中高一貫校という考え方も出てきていますので、県立とは別に市立として学校があるとすれば中学と高校を一貫校としてやるという考え方もあるのかなと。それに短大附属として中高一貫校として格付けしていったらまた生徒の考え方も違ってくるのかなという感じがしました。私としては存続を希望しているわけですので存続するためにその学校をどうやっていったら良いのかという、そこに子どもも集まり、経済的にも市の財政にもそう迷惑をかけないでできるにはどうしたら良いのかなというふうに考えると中高一貫校とか小中高一貫校とか今、色々な地域でやっているそういうものも検討してみることもいいのかなと思います。

委員 難しい問題だなという気は正直しています。資料を読んでも今まで長いこと検討してきたことをここで資料を読んでもはっきり本当に難しいと思っています。市の方から財政のことを聞きましたが非常に耳の痛い話を聞かされたと言うことで大変心苦しく思っています。結論から言いますと私も大月高校を出て今があると思っていますのでお金が大変なのは分かりますが、自分の生活でも借金をしても、何とか良い方向性があればとは考えているんですが申し訳ありませんが正直出ませんでした。今回、市長さんとの地区対話があるということで、私は鳥沢地域に話をしながら何とか来ていただけるように呼びかけているんですが、正直地域の人にも大月高校の存続の話といっても何を話していいのか何を聞きに行けば良いのかと言われますが、渡されたパンフレットを持って、今月21日にあるという事なので、色々な地域の話も聞きながら、今回こういう席に参加させてもらって

いますが、やっぱり大月高校は無くしては困るという意見は私が声をかけた中ではほとんど頂いています。また、色々な意見を聞きながら、時間が無いんですがこの席に持って来ればと思って今日はここへ来ました。

委員 前回から資料を見ていますと大月高校を存続させるという意味ではなくて閉校するというようなマイナス要素が強く出ている資料に感じております。この辺の運営とシステムとかそんなものをたぶん前回から過去3回に渡ってやっている中で、その改善策というか対策というか、そういうのを取っているかということがまず一点。

あと、少子化問題で、私も去年まで大月高校のPTAの役員をしておりましたが、大月高校を出て短大のほうも出させていただいています。その中で少子化の問題で、今年の入学生の数が他の高校に比べプラスになったということは、たぶん私が聞いたところだと上野原高校が1クラス減ったために大月高校に流れてきたというような話もありますが、大月高校を存続させるために県立高校の定員を減らしてその分廻ってくる率も多いんじゃないかと考えております。それから先ほどの話しの中で全県一区になり大月・都留・神奈川の一部・東京都の一部から今現在大月高校に通っている生徒さんがいるというようなことも去年あたりから聞いております。あと、短大との分離について先生のほうからお話を聞きましたが、何年度までに分離をしなければならぬとか、何か問題はあるんですか。それから、それに対して前回分離をしなければならぬということが出ているんですが、それに対しての検討はされておりますか。それから大月高校を外に出すのではなくて現状に残しておいて短大を逆に外に出す。といいますのは、9億のお金を使って耐震をやればそのまま学校は残ります。そのような意味で逆に短大を外に出して大月高校を存続していただきたいというような意見でございます。それからあと1点、先生の問題ですが正採用、臨時職員ということで分かれているようですが、臨時の先生方も若い先生方がおりますので、そういう先生方を正規採用に格上げできるかということもあります。耐震の問題は先ほどいいましたが、この辺を今回聞きたいなと思っております。よろしく願いいたします。

事務局 先ほどの併置解消の問題ですが、次の認証評価が平成27年ということで、学校の耐震化と併置問題は一緒の時期になります。それまでには実施しなければならないという状況でございます。あと幾つかご質問がありました。少子化の中で定員の数ですが、県立と大月立高校では、当然県の方では大月高校をなくした場合、その分は県立の学校で確保する。逆に大月高校が今までどおりやっていくならば、県立高校でその分の定員を減らしていくというような状況を県から承っております。ただしそうは申しまして、少子化の中で来年は中学卒業者が増えますが、それ以降は激減するという形の中で今現在東部地区の中に谷村高校・桂高校・都留高校・上野原高校と4校の県立高校がございます。それにあわせて大月高校というこの5つの高校を県では視野に入れる中で高校の整備、再編を考えております。昨年大月市内で生まれた子どもが130人を切っているという状況がございまして、今現在成人式を行いますとその対象者は4百数十名になり、約3分の1になるという状況でございますから当然今の状況からいきますと今の高校が存続すること

は到底不可能な話だと思しますので、そういったものをシュミレーションしながらどうしていたらいいかということがこの中に託された議題かなと思っております。

委員 あと一つ、今年3月に新聞記事がありました。今の中学校の先生方の考え方というか生徒指導の問題で、来年の4月に入学するのはいいんですがその後、後輩がないんだよというような先生方の話をしている中で、今たぶん来年の入学生の募集で学校側の先生方も苦労して歩いているんじゃないかなと思うんです。その辺はどうなんでしょうか。

事務局 非常に難しいご質問を頂きました。皆さんは多分山梨日々新聞をよく見ていると思いますが、閉校を視野に入れた諮問会議を立ち上げるという見出しで新聞に出てございました。実は議会サイドからお叱りを頂きましたし、学校の先生方も同様です。同時に中学校の先生方も委員さんのおっしゃるとおりです。ただこの審議会を経て存続という形になればそういう問題は解消されるわけですが、これが仮に閉校という形が出たときにはやはり同じような状況が出てくるということで時期的に早いか遅いかという風な話を私はしております。いずれにしても何故今これを審議しなければならないかということも前回も審議会の時にお話したように先ほど言った分離にしても建て替えにしても27年度がリミットですよ、これをはずせば自然消滅を待つばかりというのが私どもの解釈でございます。

したがって仮に閉校という答えが出たとしても、そこには現役の生徒さんたちを卒業させて送り出すまでの3年という猶予期間が必要だと考えております。どうしてもこの時期から議論を交わして最終的には多分行政判断になると思いますが、多くの市民のご意見を伺いながら議論していただければならないということでこの時期に提案させていただいたという経緯があるわけです。この答えをする前に、前回もお話させていただいたんですが教育委員会の中で委員は現在5人いるわけですけど資料の提供を受けたり、色々調べたりしておおむね1年かけて検証してまいりました。その最終的な集約的な答えは開学当初の存在意義が今はほとんど無いのではないかという意見でした。こういうことを検証したときに大月市の財政が逼迫する中で県立高校にゆだねることが一番いいのではないかと。こういう委員さんからの意見がございました。教育委員会の立場から申しますと、大月市民の高校教育というものをするのに都留高だけではなく、大月高校が在るにこしたことはないわけです。ただ、この高校を運営していくために市の財政状況で大変厳しいものが出てきたので、なんとかここで方向付けを出さないといけないということで今日に至っているわけです。当然この中には賛否両論は出るはずですし、慎重に審議をしていただかないと後に憂いを残すような形になりますのでその点を踏まえて是非とも率直なご意見やらご提言を頂きたいと思っております。

事務局 大学を外に出して後、残った9億5千万円で校舎を耐震化すればいいじゃないかという内容のお話でしたが、9億5千万円は大学と高校の両方の施設に対応するお金ということでございますから、もし逆に大学を残すとしても大学の方も施設の整備をしなければならないし、当然大学の一部も耐震化されていませんから。どちらにいたしても9億5千万円というお金は大学だけが使える高校だけが使えるというものではありませんのでその辺

は一つご理解を願います。

事務局 まさに今、生徒募集の渦中にありまして、来年度は 55 回目の入学式となります。来年再来年の入試を行いまして 24 年度の入試につきましてはこの審議会の結果を待ってということで中学生には説明しているところです。この 8 日に中学生の一日体験入学を予定しているんですが、それにつきましては昨年度と同じ数の中学生が 200 名、中学保護者も 60 名の方が参加してくださるといことで本校について色々な面でまだまだ興味なり関心なりが、まあ心配している面もあるかもしれませんが大勢の方に来ていただけるという状況です。

委員 私は昭和 30 年生まれですが、大月高校が昭和 31 年に開設され、その当時は我々の一回り上の世代の 13.14.15 才位の団塊の世代の人たちが中学生のときだったと、それから僕も今 54 歳ですから大月高校とほぼ同じ年代なんです、一言で 54 年といってもすごい状況が変わっていると思うんです。少子化なんかは皆さんが言われているように、少子化以外にもいろんな面で世の中が変わってる。その時に大月高校は 50 数年間という長い間大きな重要な役割をやってきたと。今その役目は終わったのではないかと、そういう時代が来ているのではないかと思うんです。心情的には皆さんもそうでしょうけど市民として大月高校が無くなるのは誰でも非常に寂しいとか残念だとか、そういう心情というのは僕もそう思います。今冷静に考えると心情的な問題以外の理由で存続させる意義が正直言って見当たらないというのが正直なところなんです。これからこの審議会で色々なご意見をお聞きできると思うんですが、今のところでは存続させる積極的な理由が僕にはまだ見えないという状況です。

委員 私の息子は都留高で娘は大月高校商業科ですから非常にどちらも残ってほしいという気持ちは持っていますが、そうは思ってみてもこの事実を見ると、たとえば鳥沢小学校は去年の小学校 1 年生が 20 人なんです、ものすごい勢いで少子化が進んで来ることになりますとやはりそれなりに考えて、特に高校は単に勉強だけではありません。部活もあるだろうし活性化も、そういう高校をつくらなければならないという時に、これだけの少子化があるということではたしてどうだろうかというのが 1 つの疑問として持っております。それから 2 つ目に当時、北都留郡全郡をあげて大月高校をつくるべきだという産業の保護・学校の保護と市民のそういう声で出来上がったという経緯があるのかと思います。そういう意味ではこれは大月市全体の問題で係わり合いがあるわけですがなかなか今の状況ではそういう当時発足した意義だとかそういう事が薄らいでいるのではなからうかと思っています。2 番目に財政問題、これは専門外なので私にはちょっと良く分かりませんが、いずれにしても決断をしなければならない。前回の委員さんみたいに延ばし延ばしにしてきたんでは、今回ははっきりさせる事によってこれを責任を取るという段階にきているんじゃないかと、そんな気持ちで望みたいと思っております。

委員 前回いただいた資料を読ませていただいて、今の財政状況だとか少子化の部分やいろんなマイナスの部分は良く解りました。これを見ますと、やはり存続はできないのかなというように感じます。ただ、今の大月市を見ますと財政状況が良くない、あれも縮小

これも縮小こっちは廃止とマイナスイメージばかりで、市はこれからどうなってしまうのかということは何時にも危惧しています。

財政状況が悪いから縮小ということも分かるんですが、市の運営の中で、ここは縮小していくけれどここは大月市として少しお金をかけて行きたいよという所が見えてこないとおかしいと思うんです。今、縮小ばかりが目について大月市がどういう方向に向かっていくかということがあまり市民に見えない。ですから大月高校の問題も同じですが、今の財政状況や社会状況を見れば当然廃校になるという気がするんですが、この大月市の市立の高校ですから、非常に大月市の一つの個性というか特色だと思うんで、そういう意味でいうと、大月市が財政上もうここにお金をかける意味が無いというふうな事で考えているとすれば、それを前提に話をしなければならぬんですけど、そうじゃないよとこれから大月市の一つの特色として、もっと高校を活用していきたいという考え方もあると思うんですよね。ですから、なんかこの審議会自体が廃校に向けてる審議会のような気がしてならないです。その辺の市のビジョンといいますかこれからどういう方向に向かって行きたいのかということ、ちょっと確認したいのと、もうひとつは、前回の審議会で存続の可能性は残してこれまで努力をしてきたということが書いてあるんですが、何かあまり努力していないような気がするんです。結果として現在に来たと、たぶん数字的なものは前回 17 年の時も出てきた数字だと思います。それで存続に向けている可能性を追求したんだけど、現在こうなってしまったからしょうがないという事が書いてあるんですが、実際にそれを残そうとして本当に努力をしてきたのかどうか、何かもうなくなることを前提にして、先延ばしにしたいだけじゃあないかと気がしてなりません。もし今回存続ということになって同じような結果になるんじゃないかと。また、2,3 年後にもう無理だという様なことになるんじゃないかという気がしてなりません。ですから前回の審議会から 3 年間の間にどれだけの努力をしてきたのかという所を、もしあるんでしたら教えていただきたいと思います。

議長 何か回答ありますか。最終的に難しいと思います。結局それなりには努力はしていると思いますが、努力を全然していないということは無いと思います。今までこういう格好で来ているわけですけどそれを見越して今回の審議会を立ち上げてきたんじゃないかという感じがしますが。

事務局 只今のご意見はある意味では真に的をついていると思いますが、決して市が前回の審議会を含めて結果を踏まえて決して努力していないということはございません。ただ、これまでの経過の中で大月高校そのものに、たとえば教員についても県からの交流ですね、こうしたものを行うということはそれなりの背景があるという状況がございます。その時代時代にその時の体制の形の中でその辺のところをカモフラージュした点も確かに一理あるかと思えます。ただ、1 つには大月市として努力しようとしてもそれだけの財源も無かったと、それもできなかったという経過もあろうかと思えます。ただあくまでも今回の審議会につきましては決して廃校ありきということではなくて、存続するならばどうしたら存続できるのか、逆に廃校とするならばどういう風にしていったらいいのかということ

この審議会の中で真剣に考えていただく。その為には学校を存続する場合にも活性化する場合にも財政というものは付き物ですから、その辺の論議が平成 17 年度にはされていなかったという経過がございます。そういうものを踏まえた中であくまでも 1 件の課題の内容でありましてお金が無くして理想論は語っても現実にはできないという状況がありますからそういったものを踏まえたうえで今回はきちっとした見解を出していただきたいということで、ある意味ではシュミレーションして方向性をだしていくという形になるうかと思えます。

市が今ビジョンとして行っているものが目に見えてこないというお話がございました。大変財政状況が厳しい中で何を優先的にやらなければならないかということは、まず病院の健全化を第 1 位にやっということ、次に義務教育である学校の適正配置と耐震化。実は小中学校の耐震化が大月の場合にはあまりにも学校が多すぎるということで、耐震化率が山梨県で一番低い状況にあります。耐震化率が 46 パーセントという極めて低い状況がございます。子どもたちが学校に行って安全安心が確保できていないという状況がございます。山梨県でワースト 1 が大月市で、ワースト 2 が山梨市で 68%、20%以上開きがあり、最近適正配置を進めている中で今現在は 54%まで上がってきています。適正配置と耐震化という両面を平成 27 年度までに 100%にし、義務教育の安全を確保し、限られた財政の中で優先順位をつけてまずやっという形の中でいまこままでは決まっております。次にどうしていくかということでございますが、何を切って何をやっというふうなことにつきましては当然その他にも福祉の問題や教育の問題といろいろございます。そうしたものをしながらの次に大月高校をどうしていくかということでございますから、基本的にはまず病院の健全化、次に小中学校の適正配置と耐震化、これを何を置いてまず優先してやっというこの中で今駅を凍結している状況でございますので、その線上の中に大月高校の存続の是非が出てきている状況です。

委員 前回の審議会のときに財政状況をあまり考慮しなかったという事ですが、耐震化とか短大との分離という話もその時は無かったんでしょうか。

事務局 その話を若干始めたら委員さん方から反対意見が出て、教育に財政の話を持ち出すとは何ぞやという経過があったようです。私はその時にはいませんでしたからかこの経過を見ますとそういう状況が議事録にうたわれているということでございまして財政論議にはほとんど入らなかったという状況がございます。今回は財政状況を踏まえた中で先ほどからいろんなご意見が出てきた事を総合的に考慮した上で判断していくということです。

委員 財政が無くて語れる問題ではないと思いますが、それをその時たち消されたという時に何で財政問題を言わなかったのかと思います。執行部には執行権、議会には議決権があります。執行部が非常に強い権利を持っているわけです。今非常に暗いことばかりいろいろ言われているけれども、執行部がどうだったかと、それを言ってるんだと思います。どうして今まで審議されたことを前向きに検討して実施してこなかったということです。

事務局 実は第 1 回目のときに検証と考察という形の中でそのものをご提案させていただいております。今回の審議会は平成 17 年当時と同じつてを踏まないようにという形の中で今回

があります。当然その当時の段階では事務局は担当しておりませんでしたので、これは逃げでも何でもありません。今そういうことを言われても困るという状況がありますので、それは当然私たちは行政ですからその責任はあろうかと思いますが、こうした状況でありますからこれから先のものについては、責任を持って対応させていただきたいという形の中で今回の審議会に入らせていただいたという状況でございますからよろしく願いいたします。

委員 もし審議会をしなくたって執行者がこうだと言って議決すればそれで済む事で、はっきり言って審議会を立ち上げなくたって。そういうこともあるからやっぱり審議会をやるにはどういう形で今までどうして来たかということを検証する必要があると私は感じております。以上です。

委員 大月高校を存続させるか否かという事のご理解よりも大月市にはいかなる問題があるかという事をまずご理解願わないと1つの問題としては対峙出来ないと言う事だと私は思っています。今大月市の中では社会保障というものが問題になってきています。その後で教育文化というものがなければ町というのは活性化しないと言う事は事実であると私は思っています。ここでたとえば税金を下げるとか、国税が落ちるということは地方に来る税金が減るということですから、我々の県民税いわゆる地方税が上がるということです。税金が平均して上がる世の中になるんです。これは9月1日からなるのか来年になるか分かりませんが、おそらくこれは間違いなくなると。もう一点、色々な委員会の中で私は社会保障の委員会にも入っておりますので健康保険、国民保険、介護保険等々色々あります。その中で、値上げをしなければならぬという部分は沢山あるわけです。しかし、それを我々は永い間の検討の中で最小限に抑えて苦しい中で上げているのが事実なんです。我々が今一人当たり子どもや赤ちゃんを含めて120万円の借金を抱えているんです。それがさらに倍化されるという事は間違いのない。それで資料見ますとこの委員会に出ている一人当たりの負担金が一人当たり何万円になるのかなと。じゃあ10の委員会がそれだけ仕事をしているわけです。それを10倍したならば一人当たり赤ちゃんを含めおいくら負担金になるのかという事をまず大きな目で捉えていただきたい。ですから感情論は一切捨てなければならぬ。今回の会議は非情な会議だと私は思っています。感情論だけでこういう会議をやる。存続したほうが良いという感情論、それは分かります。私も必要であるということは分かります。しかし、必要ならば必要なものが無ければやっていけないということは事実です。私立の学校の事を言えば学校経営が悪くなった場合は、卒業生が寄付金で負担しているわけです。じゃあ皆さんそれ位の強いお気持ちがございますか。というふうに逆に私は問いたい。それよりも少子化を抱え、これから子どもが増える場合にやはり託児所、それから幼稚園、保育園、こちらの教育にさらにお金が必要な時代に入ってきて、国も県も市も補助金を多く投げかけなければならぬ時代になってくるのではないのでしょうか。そういう場合に我々が20年後の大月市を存続させる為にはどのようにするかという事の強い決意を持たなければ。

私自身がこんなに責任を重く言うのも申し訳ないんですが、それ位のことを考え保障問題

をやっしていかなければならないと私は思っています。ですから存続するとかしないかとかは私は一切申し上げません。それを踏まえればおのずと結果は出てくるのかなと。たとえば県立高校が受け入れをしてくれないという事であれば別ですが、それはやはりするという保障は取れるわけですし、あと定員の問題、試験の問題、これは私は政治色だと思いません。もし議員さん達が頑張れば人数だって確保できるし定員だって多少は下げられる事もできる。山梨大では山梨県の定数枠があります。ですから、国立でやっていることが県立でやれないわけは無い。だからこういう条件は政治力の問題ですので、その辺は頑張っしていかなければならない。そうすればこの5・6年の間の子供達が高校進学という事をご心配なさる必要はないし、逆に近ければよいという時代は過ぎていて、やはり自分で通学しているんな場所に行って知識を得ることも大事なのかなと私は思っています。以上です。

委員 この問題は大月高校の問題だけではないと思います。私は何年か前、何年か前といってもつい最近ですが、保育所・保育園の存続についての審議会をさせて頂いた時も同様な論議をしましたね。その時は公立の保育所と私どものような私立の保育園が同じテーブルに着いたんですね。それは今問題になっている少子化が大きな軸ですから、子どもが減るわけですこれは喧嘩にならないわけですね。今大月市内の中には4つの幼稚園と6ヶ所の保育園があります。10ヶ所幼児教育をする場所があります。そこで130人しか子どもが生まれていないという事は、この10ヶ所で子どもの引き合いが始まるんですね。公立で運営されている場合は税金を投入し続ければ存続は可能ですが、私立の場合は子どもがいなければ自然淘汰される。自助努力をするしか方法が無い。いかに子どもを確保するかということは経営の側面からものすごく努力をしなければ結果に結びつかないんです。そういうことも考えますと大月高校の問題は大月高校の問題だけではなくて、グローバルな所で見れば市全体の問題になるのかなと思いました。ここで白黒ははっきりさせるということが求められているのかもしれませんがちょっと難しいですね。やっぱり心情的な問題以外で存続の意味をきちんと見つけることが出来なければやはり存続は難しいと私は思いました。ですから後は住民感情をどういう風に皆さん一人ひとりに市長さんに対話していただいてその辺を大月市のためにというか将来に生きて行く私たちよりももっともっと若い人たちがどんなように生活出来るのかという視点で考えていく方がいいのかなと。

それから社会保障の問題はこれから大きな課題になってくると思います。

議長 市全体の問題としてということ、それから存続の意義を見つけなければということ。それから若い人たちが大月で暮らせること。人口が増える方法も考えなければならぬと思います。かなり大きい問題だと思いますのでもちろんここではすぐに結論が出せないわけですが、今日それぞれの委員さんから伺った中身は大体以上のような中身になるわけですが、若干まだ時間がありますので何かございましたらお聞きしたいと思います。

委員 都留市との合併というのを考えているのかいないのか。たとえば都留市と合併することによって、短大を都留文化大学と合併して、1つの市になれば1つの市に大学は2つはいらないですね、そうすると短期大学の方が完全に出て行く体制ができますよね。併置の問

題にしても色々な問題が多少なり前向きに考えられる部分もあるのかもしれない。何回か都留市と合併の話が出る中で多分そうしてきたものだろうと思いますが、今後そうした見通しは27年度までにあるのかなのかということです。もしあればお聞きしたい。

事務局 3年ほど前に大月市は自立していくんだという方針をまとめました。そうは言いつても国のほうの流れの中では道州制というものが目の前にちらつき出しているのも事実であります。ただ大月市がこのまま自立出来るかどうかという事は3年か4年のスパンで考えれば答えが出るのではないかという風に思います。聞く話によると議会サイドでは多少交流を持ち始めたというお話は伺っておりますが、その辺がまだ具現化していませんので、今回大月高校の議論のリミットが平成27年度までということで正直分かりません。

委員 大月の今ある現状はこういう現状だとは分かるんですが、将来大月市がどのようにして行くかという事が見えないと高校の問題だけではなく、大月市をもっていこうというものがあればそのために高校が必要とか必要じゃないかとかそういうことになるんじゃないかと思います。その辺がまだ全然見えてないような気がします。今なにしろマイナスに行くことしか出ていないのではないかと思います。

委員 社会保障問題をまず解決すること、医療・福祉いろいろ入っていますけれど大きく捕らえて社会補償問題とします。これだけ東京に近い市ですから東京からも人口の動きはある。また、東京都とも手を組めるというプランは正直言ってあるわけですね。そのためにはやはり財政というものはそちらの方に出していかなければいけないという事情は当然今招いている。これは今即やらなければいけないという事になっているわけですね。大月高校が出来たきっかけというのは昔我々が子どものころ私が5・6才のころガチャマンと言われて大月市は山梨県の中で3番目位に景気がいい、おそらくトップだったのかなと。石を投げれば全部引っかけたんですから、それだけすごい時代だったですね。ですからそういう時に学校がいる。その時代と共にやはりもう今から40年位前から機織り業というのがだめになってきている沈滞化してきたというのは事実ですね。その中で今社会補償問題が一番大きいんで何とか市を上げて我々も協力の中で社会補償問題を片付けることによって教育文化というものももう一回盛り上がってくるのではないだろうか私達も期待を正直持っているところだと思います。

委員 申し訳ございません。議員の立場といたしまして本当に財政は極めて建て替えると言うお金が無いのは分かっております。しかし、大月高校を残すとしたならば、今富中が猿橋と統合する。この学校を利用した場合、こういう事が可能かどうかこれをちょっと宿題にして。要はあのままで行くと定員が150人の半分ぐらいになるのかな。現状で行くと2クラス位になるのかな。そうした時に先生の数の資料を提出していただけませんか。残る道は私自身の議員としての立場としてはその道ぐらいしか考える所はない、実際。建て替えることは極めて困難、それは本当に十重承知しております。ただ最後にあれを残すとしたならばその手しかないのかなと思うしかございません。是非次回それをだしていただければありがたいと思います。以上です。

委員 ちょっと勉強不足なのかもしれませんが、今何が大月市に体制の中で一番必要なものが

何かという事が一般の市民には見えてないんですよ。ただなんとなく財政状況が厳しいとはいっても何がどう厳しくってどこに今お金を掛けなければいけないという事が分からない。だからこうして議論しているときにああしたいとかこうしたいとかいう余地が出てくるわけですね。そこで何を残して何を無くしていいんですかというどちらかと迫られた場合はどっちかを取らなければならないという状況が出てくるはずなんですよ。これを今やらなければ大月市は後 10 年経てば破綻しますよと言われてたらもうそこをやるしかないじゃないですか。財政が厳しいからどうしましょうかと振られても実は結果は見えているんだよという感じで言ってもらった方が分かりやすいのかなと思いました。

委員 なかなか行政さんの立場、議員さんの立場としてはなかなかそういったことは言えないと常々思っていますので私が代弁させていただいている。私もいろいろな会議に出ているので本当に今おっしゃったようにどれが大事でこれが無くなっちゃったら本当にだめだなということを感じてひしひしと感ずる部分もあります。だからこういう会議に出るのはつらいんですね、前も短大の会議に出た時ももっと勇気をふるって言えばよかったのかなという部分も私も確かにあるんですがやはり周りの方のお気持ち心情を考えると、という甘い部分もあったと思います。しかし、2 年経ってまたこれだけの色々な問題があると、やはりある意味で本当の早い決断をしなければならぬ。決断が早ければ早いほどある意味では大月市は救われるという考えも生まれてきたので今日、代弁させて頂いたということです。

議長 いずれにしてもこの審議会で皆さんのご意見をまとめて答申するというわけですから色々な意見を出してもらってまとめて行かなければならないと思います。今日は 2 回目ですからこれから 3 回目 4 回目とありますのでこれから、事務局の方に宿題もだいが出ているので、また宿題を見ながら良い答申を出していかなければならないと思います。

事務局 最後、説明する資料とか、こういったことを教えて欲しいなというものがありましたら、連絡をいただければ資料を前もって委員さんのお手元にお届けして研究していただき、この 2 時間というものは貴重な時間ですから議論のみで会議をさせていただきたいと思しますのでご協力をお願いいたします。

委員 教育委員さんのお話の中で、開学時の精神が薄れてきているのではないのかということですね。だから先ほどから色々な方々からお話がありました。50 年経って本当に大月高校が地域のために尽くされたんだけれど、実際今はそのこのところの部分が少ないというか薄れてきている。そういうような資料があればお願いしたい。先ほどお話がありましたように存続するためには何が必要で、存続できない場合には何があるかという事が少しでもあればいいのかなということで開学時は確かに子どもの数が多かったということもあるんでしょうけど、今少なくなったということも大きな理由と、そして財政的な問題も大きな理由だということは分かりますけれどそれ以外に大月高校がこれだけ頑張っている中で実際に市民は欲しいと思っているんだけど現実に思っているだけであって本当に大月のためになっているのか無いのかというようなものがあれば出していただければ参考資料になるのかなと思います。

事務局 分かりました。研究をさせていただいて何とか資料を提供させていただきたいと思いま

す。

委員 あと、大月市のビジョンみたいなものがあれば教えていただきたい。ずうっと住んでいなかったものでよく分からないので、将来的には戻ってきたいと思っているんですけど、今の現状の中ではなかなか戻ってこれる状況じゃあないんです。だからそういうことで大月市は東京に近いんですからベッドタウンとしても使えるわけですね。新宿まで1時間半でいける訳ですから。その中でどうやって大月市をベッドタウンなり人口を増やしていくか、そういう手立てをどうして行こうかという事があれば少子化ではなくなってくるだろうし、将来大月市がどうなるかということも分かるんじゃないかと思います。そういった資料がもしあればお願いいたします。

事務局 分かりました。大月市第6総合計画があります。それをお届けするようにいたします。

議長 時間となりました。それでは第2回の審議会をこれで終了したいと思います。ご協力本当に有難うございました。

次回第3回目の日程を9月3日(木)午後2時より大月市民会館4回会議室で開催することを確認し終了した。